WDHA#009
DreamweaverとMovable Typeの連携

studio md 小坂光輝
(http://studiomd.jp/)

- 自己紹介
  - プロフィール
    - 名前：小坂光輝（こさかみつてる）
    - 1970年生まれ、青森県五戸町在住
    - 2005年よりフリーランスのウェブデザイナーとして活動中
    - 営業エリア：青森県南（八戸市、十和田市、三沢市）
    - 12月からスケジュール空いてるYO!
  - 最近の制作事例
- 第１章　Dreamweaverの基本
  - 第１章で解説すること（１５分）
    - 1．どんなことができるソフトか？
  - 1．どんなことができるソフトか
    - デモ
      - テキストデータを高速マークアップ
      - 選択部分に当たっているCSSを表示させる
      - サイトデータの同期（差分アップロード）
      - サイト内検索・置き換え
      - リンク切れをチェック
      - HTML構文エラーのチェック
  - 第１章のまとめ
    - Dreamweaverは事実上のHTMLエディタのデファクトスタンダード
    - 小坂の場合、MTやEC Cubeなどでサイトを作る場合でも、Dreamweaverベースで作られている
- 第２章　Dreamweaverのテンプレート
  - 第２章で解説すること（３０分）
    - 1．なぜテンプレートか
    - 2．テンプレートを使うメリット
    - 3．DWでテンプレートを作る
  - 1．なぜテンプレートか？
    - サイトが10ページぐらいだったら必要ない
    - でも、サイトってページが増えることはあっても減ることは少ない
    - 個人的経験だと
      - サイトA　当初20ページ→現在40ページ
      - サイトB　当初40ページ→現在800ページ（DW 200ページ、MT600ページ）
      - studio md　現在800ページオーバー
  - 2．テンプレートを使うメリット
    - スピーディな更新が可能
      - サイトは常にページが増えていく
      - サイトは常に改善されていく＝改善をスムーズに行うには、メンテナンス性の高さが求められる
    - サイトの規則性、一貫性、整合性が保たれる
      - 各ページがバラバラなHTMLでは品質が良いとは言えない。
      - デザインやUIがバラバラ＝信用性の低いサイト
    - 編集可能領域以外はロックされ、編集できなくできる（ミスの軽減）
  - 3．DWでテンプレートを作る
    - サンプルサイトの解説
    - HTMLを作る
    - 編集可能領域を設定
    - テンプレートとして保存
    - デモ
      - デザインや構造の統一
      - 編集可能領域の設定
      - テンプレートのネストと条件分岐（オプション領域）
  - 第２章のまとめ
    - サイトの多ページ化は避けられない
    - サイトに求められる品質が高くなっている
    - サイトの規則性や一貫性を保ったまま、スピーディにページを追加・更新することが求められてくる
    - こういった要求事項に対応していくためには、テンプレートを使ったサイト管理が有効ではないかと考えます。
- 第３章　Movable Typeの基本
  - 第３章で解説すること（１５分）
    - 1．なぜMovable Typeか
    - 2．Movable Typeのインストール
    - 3．Movable Typeのテンプレート構造
  - 1．なぜMovable Typeか
    - CMS化のニーズ
      - お知らせぐらいは自分で更新したい
      - プレスリリースぐらい自分で更新したい
      - 施工事例ぐらい自分で更新したい
    - 小坂がMTを使う理由
      - ページの書き出しがスタティックなファイルにできる（*.html）
      - 柔軟なテキスト書き出し（RSS、sitemap.xml、その他テキスト形式）
      - テンプレートを簡単に更新する仕組みがある（第４章）
      - 実はかなり昔からMTユーザーだった
  - 2．Movable Typeのインストール
    - Movable Typeの種類
      - Movable Type Pro
        - 有料
        - 1ライセンス、5ユーザー、100プロフィール（MTCS）　52,500円
        - カスタムフィールドが使える
        - MTCS（Movable Typeコミュニティソリューション）のテンプレートがついてくる
      - Movable Type
        - 無料
        - 旧MTOS（Movable Type Open Sorce）
        - カスタムフィールドが使えない
        - MTCSはついてこない
      - そのほか
        - ECパック（QUICKCART）、CMSソリューション、Enterprise（MTE、大企業向け）
    - サーバー選び
      - 動作条件
        - Perlのバージョン(5.8.1 推薦)
        - データベースのバージョン(MySQLは4.0以上)
        - 人によってはPHPのバージョンも
      - サーバー選びは慎重に
      - 特に重要なチェック項目
        - MySQLのバージョンとツール
          - バージョン5も検討する
          - MyPHPAdmin
        - MySQLのデータベース数
          - EC Cubeなども入れる場合、複数のデータベース数が必要
        - 処理速度
          - めっちゃ重いサーバーは避ける
          - 特に商用サイトの場合、それなりの金額のサーバーで
      - 使ったことがあるサーバー
  - 3．Movable Typeのテンプレート構造
    - 各テンプレートの役割
      - インデックステンプレート
        - トップページやサイトマップなど
        - ファイルの保存位置、保存名を指定できる
      - アーカイブテンプレート
        - ブログ記事リスト（カテゴリ）、ブログ記事
        - 時系列やカテゴリ別になるページ
        - ウェブページ（時系列ではないページ、会社案内、お問い合わせ等）
      - テンプレートモジュール
        - パーツ的扱い
        - グローバルナビ、サイドバー、フッター
      - システムテンプレート
        - コメントの確認や検索結果など
        - *.cgiが実行されて値を返すときに使われるひな形（例：mt-search.cgiなど）
  - 第３章のまとめ
    - CMSへのニーズがMTの人気を支えている
    - サーバー選びは重要である
    - 初めての人はとりあえずMTOSで
- 第４章　DreamweaverとMovable Typeの連携
  - 第４章で解説すること（３０分）
    - 1．Dreamweaverでテンプレートを作る
    - 2．DWテンプレートを元にMTテンプレートを作る
    - 3．MTのテンプレートに外部ファイルをリンクさせる
    - 4．この方法を使うメリット
    - 5．まとめ
  - 1．Dreamweaverテンプレートを作る
    - Dreamweaverのテンプレート構造
      - マスターテンプレート(/Templates/tmpl.dwt)
      - D1.トップページ用 /Templates/index.dwt
      - D2.カテゴリ用 /Templates/category.dwt
      - D3.個別ページ用 /Templates/indivisual.dwt
      - D4.ウェブページ用 /Templates/webpage.dwt
      - D5.コメントプレビュー /Templates/comment-preview.dwt
      - D6.コメント完了 /Templates/comment-completion.dwt
      - D7.検索結果 /Templates/search-template.dwt
    - デモ
      - 実際の操作方法
  - 2．DWテンプレートからMTテンプレートを作る
    - /common/mt-tmpl/
      - インデックステンプレート /common/mt-tmpl/index-template/
        - M1.トップページ用 /common/mt-tmpl/index-template/index.html
      - アーカイブテンプレート /common/mt-tmpl/archive-template/
        - M2.カテゴリ用 /common/mt-tmpl/archive-template/category.html
        - M3.個別ページ用 /common/mt-tmpl/archive-template/indivisual.html
        - M4.ウェブページ用 /common/mt-tmpl/archive-template/webpage.html
      - テンプレートモジュール/common/mt-tmpl/template-module/
        - M5.コメントプレビュー /common/mt-tmpl/system-template/comment-preview.html
      - システムテンプレート /common/mt-tmpl/system-template/
        - M6.コメント完了 /common/mt-tmpl/system-template/comment-completion.html
        - M7.検索結果 /common/mt-tmpl/system-template/search-template.html
      - RSS、テンプレートモジュールなどは割愛
      - CSSはMTではなくDW側で修正、UPする
    - DWテンプレートからページ（MT用テンプレート）を作成
    - デモ
      - 実際の操作方法
    - 今作ったファイルに、MTタグを書く！
  - 3．MTのテンプレートに外部ファイルをリンクさせる
    - 1．/common/mt-tmpl/をサーバにアップロードする
    - 2．Movable Type側の設定
      - テンプレート
        - インデックステンプレート
          - メインページ
        - アーカイブテンプレート
          - ブログ記事のリスト（カテゴリー）
          - ブログ記事
          - ウェブページ
        - システムテンプレート
          - コメントプレビュー
          - コメント完了
          - 検索結果
    - 3．デモ
  - 4．この方法を使うメリット
    - サイトの一貫性
      - マルチブログ化や多ページ化しても、ソースコードの一貫性を保持しやすい
    - 制作環境
      - 強力な編集機能を持つDreamweaver内で、ソースコードやCSSを編集できる
      - DWの拡張機能で、MTのタグ・モディファイアを表示できる
      - 編集可能領域しか編集できないので、ミスが少なくなる（閉じdivを消すとか）
    - 更新の容易性
      - MTのテンプレート変更は、mt-tmplフォルダをアップロードして「再構築」でＯＫ
      - まさかコピペしてない？
      - DW側でできない複雑な条件分岐は、MTにやらせることも可能に
  - 5．まとめ
    - MTデフォルトのテンプレートはわかりにくいので、サンプルサイトを参考に、一度単純にしてあげる必要がある
    - サンプルサイトへのアクセス方法（参加者限定）
- おまけ（時間があれば）
  - DWライブラリをMTテンプレートモジュールに連携させる
  - MT4.2のエントリ内でMTタグを使う
  - 再構築が遅くて困った！